リンクスの事業再生現場レポート 第87回

（株）リンクス
宇都宮市西一の沢町8-22　栃木県林業会館５Ｆ
TEL：028-634-5088
Mail：info@rincs.biz
URL：http://www.rincs.biz/

【スタンスの変化】

本年も私ども株式会社リンクスは、中小企業の皆様の発展のため活動して参ります。宜しくお願い致します。

新年初回の投稿ですので、どなたにも希望が持てるような事例を紹介したいと思います。実は、昨年後半あたりから、弊社のクライアント先に金融機関から思っても見ないような提案が舞い込むようになってきています。

まずはＡ社の件ですが、Ａ社とは５年前からのお付き合いです。過剰債務と慢性的な赤字体質のため、経営改善計画を策定し、金融機関からはリスケジュール支援を受けました。その後、取引先への価格交渉を着実に実行したことにより、昨年、改善計画を上方修正し、返済額の増額を実施したところでした。業種上、定期的に設備更新が必要なため、設備投資はリースにて実施する予定としていましたが、メインバンクから融資対応させてほしいとの提案があったのです。新規に融資を受けるのは７年ぶりです。しかもメインバンクは既存金利の引下げまでも実行していただきました。

Ｂ社は、収益力も改善し、銀行借入も適正水準です。しかしながら、先代が経営していた時代の社会保険料の延滞金を２千万円抱えていたことから、Ｂ社への融資は厳しい判断がされてきました。必要資金の調達も進まず、収益チャンスを逃さざるを得ないケースも多々ありました。私共も難しい案件であることは理解しつつも、数年に渡りメインバンクに延滞金解消スキームを提案してきましたが、色よい返事はいただけませんでした。ところが、昨年末、メインバンクからＢ社へ対し、延滞金解消のための新規融資の提案が為されたのです。社会保険料の延滞金を完済させることが目的です。３年前から社会保険料を分割納付していましたが、その実績も見た上での与信判断と思われます。社会保険料完済後には、正常先として取引される方針とのことであり、メインバンクへは感謝しかありません。

Ｃ社のケースは更に特殊です。Ｃ社は昨年、監督官庁からペナルティを受け、売上が大幅にダウンしました。メインバンクから私共に相談があり、実態把握を進めました。ペナルティの影響はメインバンクが想定していたよりも大きく、このままでは６カ月後に資金ショートすることが判明しました。ペナルティを克服するための改善策が見えてきたものの、改善には１年かかる見込みです。資金ショートは避けられない状況であり、社長と一緒にメインバンクへ報告に行きました。通常ならば、元本返済猶予が最大限の支援のところですが、メインバンクは私共の提案を真剣に検討してくれたのです。リスケジュールと同時に新規運転資金が実行されました。

人口減少社会やマイナス金利の影響で、金融機関も収益力拡大が喫緊の課題です。現場に携わっている私共の感覚としては、従来金太郎飴とも揶揄された金融機関の融資スタンスが変化してきているように思えます。まだまだ一部の金融機関での取組ですが、従来の金融常識にとらわれずに、お客様を見て判断するようなスタンスがこれから広がっていくことを期待しましょう。

〈著者プロフィール〉
代表取締役社長　佐藤　正人
昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。
昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。
在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。